

第1号議案

認定 NPO 法人エッジ

総会資料

2019年事業報告書

全般:

ディスレクシアという言葉はずいぶん知られてきているがでは具体的にどのような対応をしたらいいのかまでわかって適切な対応をしているところはまだ少ない。

6月に読書バリアフリー法が制定され、「発達障害」への対応も法に含まれることとなった。また、教科書バリアフリー法に関連して外国につながりのある児童生徒への音声教材の提供について法律改定の検討が始まっており、エッジも協力をしている。

広報:

WEBサイトの活用、SNSの活用、月一回メルマガ発行、年3回ニュースレター発行、

MOOC:

英語(ロンドン大学)コースは Coursera 上で日本語の字幕が入っている。日本語での受講者は字幕を入れる前は一けた台だったのが2019年度は300名を超えた。

「子どもの味方の教え方」は FISDOM 上で7月から運用が開始された。月に5名程度の受講となっていて、PRが必要。テキストの売れ行きは良い。

BEAM:

文部科学省から委託を受けて教科書の音声化を行っている。利用者の数は300人弱である。2020年が小学校の教科書の改訂年にあたるため、体制を整えているが、教科書出版会社からデータを預かり、テキスト化やPDF化をするデータ管理機関が変更になり、2019年末までにほとんど取り掛かれなかった。

ジョリーフォニックス:

英国から山下桂世子氏を主任講師に招き、日本で唯一ディスレクシアの児童生徒に直々にアルファベットと42の音を10日間で学ぶコースを運営している。2019年は8名が終了した。修了生の中には英検2級が取れるまで英語に取り組めるようになった人もいる。

LSA(学習支援員)養成講座:

28名受講中。ビデオ撮影+編集を外部に委託していたが、年度途中から内部で賄えるようにした。

受講生からは満足度が非常に高い。宮崎が終了。大阪が一年抜けている。北海道は8名受講中。

APDF2020:

岡山にて6月にプレイベントを開催した。参加者200名、岡山大学。2020への準備として足固めとなった。

2020の準備として岡山の各団体と連絡を取っている。

DXセミナー

大庭理事が講師となって、1時間ディスレクシアの基本についての話と続く1時間で参加者とのフリートークの時間を設けている。満足度が高く、参加者から他のエッジのサービスにつながる方も多い。

DX会:

偶数月(2、4、6、9、10、12)の土曜日午後、成人ディスレクシア当事者が屋外で出かけ、親ぼくをはかっている。大蛇伝説探索、温泉めぐり、ザリガニやタウナギ釣り、古民家訪問などを行った。

特別ワークショップ:

12月、ディスレクシアの建築家が直接、小学生・中学生を指導し、「未来の住まい」のモデルを作った。

その他

相談、アセスメントが多くなってきている。アセスメントをして、意見書を渡し、結果学校における「合理的な配慮」が受けられるようになったケースが多く出てきている。

東京杉並ロータリークラブの共催で「柳家花緑氏の講演会」を開催できた。200名参加。